

『道徳形而上学の基礎づけ』

カント／中山 元・訳

タイトル・リスト

[2012.10.01]

序文

- 001 哲学の三分野
- 002 実質的な認識と形式的な認識
- 003 三つの学の任務
- 004 経験的な学と純粋な学という観点からの哲学の分類
- 005 形而上学の分類
- 006 哲学における分業の利点
- 007 純粋な道徳哲学の必要性
- 008 道徳法則の純粋さ
- 009 道徳的に善であるためには
- 010 ヴォルフの一般実践哲学は、どうして道徳の形而上学でないか
- 011 実践的な理性と思弁的な理性
- 012 『道徳形而上学』と『道徳形而上学の基礎づけ』の関係
- 013 道徳の〈基礎づけ〉の課題
- 014 分析的な道と総合的な道

第一章 道徳にかんする普通の理性認識から、哲学的な理性認識へと進む道程

- 015 善い意志
- 016 「善い意志」を促進する特性
- 017 善い意志の不変な価値
- 018 意志の絶対的な価値という考え方への疑念
- 019 理性と本能
- 020 理性の使命
- 021 理性の真の使命
- 022 義務の概念
- 023 義務に適った行為と義務に基づいた行為
- 024 自分の生命を守る義務——自分自身への完全義務
- 025 親切の義務——他者への不完全義務
- 026 自己の幸福の追求——自分自身への不完全義務
- 027 隣人愛の掟——他者への完全義務の変形として
- 028 意欲の原理
- 029 法則にしたがう行動原理
- 029n 意欲の主観的な原理と客観的な原理

- 030 法則の観念
- 030n 尊敬とは
- 031 法則に合うこと
- 032 抜け目のなさや義務
- 033 善い行動原理を見分ける方法
- 034 コンパスとしての原理
- 035 自然に生まれる弁証論
- 036 実践哲学の必要性

第二章 通俗的な道徳【ジットリヒ】哲学から道徳【ジッテ】形而上学へと進む道程

- 037 義務に基づいた行為への疑問
- 038 道徳的な根拠は不可視である
- 039 義務についての確信
- 040 道徳的な法則は理性的な存在者一般に妥当する
- 041 実例の意味
- 042 経験から独立した道徳の最高原則
- 043 通俗性と哲学
- 044 道徳の形而上学の試み
- 044n 純粋な道徳哲学の意味
- 045 ごたまぜの道徳理論
- 045n ズルツァー氏の疑問
- 046 五つの確認事項
- 047 通俗的な哲学から形而上学へ
- 048 理性と意志の関係
- 049 命法とは
- 050 命法の表現
- 050n 心の傾き、関心、依存する意志の定義
- 051 完全に善い意志と命法
- 052 仮言命法と定言命法、第一の定義
- 053 第二の定義
- 054 命法と意志の関係
- 055 不確定な実践原理、断定的な実践原理、必然的な実践原理



第二章 通俗的な道徳【ジットリヒ】哲学から道徳【ジッテ】形而上学へと進む道程

- 056 熟練の命法
- 057 幸福への意図
- 057n 抜け目のなさの語の二つの意味
- 058 道徳性の命法
- 059 三種類の命法
- 059n 実用的なという語の意味
- 060 熟練の命法の可能性
- 061 抜け目のなさの命法の可能性
- 062 定言命法の可能性
- 063 法則としての定言命法
- 064 定言命法の可能性の洞察の困難さ
- 064n アプリオリな総合命題としての定言命法
- 065 定言命法の表現方式
- 066 定言命法の必然性
- 066n 行動原理と法則の違い
- 067 第一の定言命法の表現方式
- 068 定言命法と義務の概念の関係
- 069 第一の定言命法の別の表現方式
- 070 義務の分類
- 070n 義務の分類の留保
- 071 自殺の実例——自分自身への完全義務
- 072 返すあてのない借金の実例——他者への完全義務
- 073 才能を放置する人の実例——自分自身への不完全義務
- 074 他人への援助の否定の実例——他者への不完全義務
- 075 義務の分類
- 076 定言命法の例外
- 077 これまでの成果とこれからの課題
- 078 人間の本性と義務の関係
- 079 哲学の立場
- 080 道徳性とその似姿
- 080n ほんらいの徳

- 081 実践哲学の課題
- 082 意志、意志の目的、手段、動機、動因などの概念の定義
- 083 定言命法の根拠
- 084 絶対的な目的としての人格
- 085 目的自体としての人間性——第二の定式
- 085n 要請
- 086 自殺の実例の検討——自分自身への完全義務
- 087 虚偽の約束の実例——他者への完全義務
- 087n 道徳の通俗的な表現
- 088 自然の目的である人間性の開発を放置する人の実例——自分自身への不完全義務
- 089 他者の幸福の促進の実例——他者への不完全義務
- 090 第三の定言命法の原理
- 091 立法者としての意志
- 092 利害関心の放棄の定式化
- 093 依存する意志と普遍的な意志
- 094 立法する普遍的な意志の原理——第三の定式
- 094n 原理の実例
- 095 自律の原理
- 096 目的の国
- 097 目的の国の定義
- 098 理想としての目的の国
- 099 目的の国の国民と元首
- 100 元首の資格
- 101 義務とは
- 102 義務と行動原理
- 103 価格と尊厳
- 104 相対的な価値と内的な価値
- 105 市場価格、感情価格、尊厳
- 106 尊敬と自律



**第二章 通俗的な道徳【ジットリヒ】哲学から道徳【ジッテ】形而上学へと進む道程**

- 107 行動原理に含まれる三要素
- 108 行動原理の形式
- 109 行動原理の内容
- 110 行動原理の完全な規定
- 110n 自然の国と目的の国
- 111 絶対に善い意志の表現方法
- 112 目的の主体
- 113 目的の国の定言命法
- 114 崇高さと尊厳

道徳性【ジットリヒカイト】の最高原理としての意志の自律

- 115 意志の自律の原理

道徳性のすべての偽りの原理の源泉としての意志の他律

- 116 他律の発生

**他律を根本的な概念とした場合に生まれうる道徳性【ジットリヒカイト】のすべての可能な原理の分類**

- 117 批判の役割
- 118 他律の二つの原理
- 119 経験的な原理の欠陥
- 119n 道徳的な感情の原理と幸福
- 120 完全性の概念による根拠づけ
- 121 完全性の概念の好ましき
- 122 これらの原理の真の根拠
- 123 他律の原理の欠陥
- 124 善い意志の原理
- 125 道徳性の真理性

**第三章 道徳【ジッテ】の形而上学から純粋な実践理性の批判へと進む道程****自由の概念は、意志の自律を説明するための〈鍵〉となる**

- 126 意志と自由
- 127 自由の積極的な概念
- 128 自由の概念の根拠づけの準備

自由は、すべての理性的な存在者の意志の特性として、前提されなければならない

- 129 自由の証明
- 129n 理念としての自由

道徳性のさまざまな理念にともなう関心について

- 130 自由の理念
- 131 「なすべし」と「意欲する」
- 132 三つの難問
- 133 道徳的な法則の拘束力
- 134 自由の循環論法
- 135 別の視点
- 136 感性界と知性界
- 137 常識的な人物の傾向
- 138 理性の優越
- 139 二つの観点——他律と自律
- 140 自律の概念
- 141 循環論の解消

定言命法はどのようにして可能になるか

- 142 知性界の法則と義務
- 143 定言命法の可能性
- 144 極悪な人の願い

**第三章 道徳【ジッテ】の形而上学から純粋な実践理性の批判へと進む道程****あらゆる実践哲学の究極の限界**

- 145 自律と自由の理念
- 146 自由についての理性の弁証論
- 147 自由の矛盾
- 148 思弁哲学の義務
- 149 実践哲学の要求
- 150 人間の二重性
- 151 人間の二重の自己理解
- 152 実践理性の越境
- 153 理性の越権
- 154 自由の理念と叡智
- 155 道徳的な法則への関心
- 155n 理性の直接的な関心と間接的な関心
- 156 法則への関心
- 157 残された問い
- 158 叡智界の理念
- 159 道徳的な研究の限界

**結論としての注**

- 160 道徳哲学の目的

